

第44号

ながおだに新聞



THE NEWS
NAGAODANI

Vol.44



発行所

学校法人 東洋学園

長尾谷高等学校枚方本校
大阪府枚方市長尾元町2-29-27
〒573-0163 TEL072-850-9111

<http://www.nagaodani.ed.jp/>

e-mail info@nagaodani.jp

違いを認め合う大切さ

校長 小寺 克一

卒業生のみならず、卒業おめでと。

卒業にあたり一言お祝い申し上げます。皆さんが高校生活を送った最後の年にわが国では政権交代がありました。これはアメリカ合衆国のオバマ大統領の誕生に端を発する世界的な流れで今までの生活から変化を求めた国民の気持ちの表れと言えるでしょう。このような社会の不安定な時期に卒業していく皆さんにとっては、長尾谷高校で培った「自学自習」の精神を活かしてさまざまな難題を克服してください。単位制通信制のわが校の特色ある学習を通じて自らをコントロールし、やるべきことを最後までやりとおすことを深く学び、実践してきました。これからの厳しい社会を生き抜いて行くためにこの実践力が役立つものと確信しております。

前の五千円札の肖像画にもなった盛岡市出身の新渡戸稲造先生（一八六二～一九三三）の言葉に「人間は、それぞれ考え方やものの見方が違うのが当然である。その違いを認め合い、受け入れられる広い心を持つことが大切

である。」と、あります。まさに変化を求める今の時代にあつて、人それぞれの立場の違いから様々な考えを持った方をする人と出会うことも多々あると思います。その場合にも自分の考え方や見方に固執することなく、相手の立場にたつて意見を聞き、また、自分の考えを相手に伝えることにより、お互いが相手の立場にたつた考えを理解しあえるまで意見を交わすことが大切であると言えます。

「高校生活で学びとつたものを社会で有意義に活かすための惜しみない努力をこれからも継続してほしい」という願いを込めて贈る言葉とさせていただきます。これからの活躍を期待いたします。



○知事賞

池田 梨絵

○日本私立中学校高等学校連合会・会長賞
増田 祐子

○大阪私立中学校高等学校連合会・会長賞
浅野 優子

○全国高等学校通信制教育研究会・会長賞
都司 健人・藤原 千尋

○全国高等学校定時通信制教育振興会会長賞
中村 優・松井 友希

○全国私立通信制高等学校協会・会長賞
安田 敏彰・沖田 真衣

○学校長賞

築谷 綱手・平尾 優也
田中 翔子・秋穂 星七
谷 知朗

○優等賞

南 真依・島口 奈々
小池 まみ・芝 朋来
森 貴大・田島 麻希

平成21年度(後期)卒業式表彰生徒

○優秀技能賞

増田総一郎・村田 佳美

○スポーツ功労賞

小関みちか・石郷岡宏記
和久井健太・吉田 恵美
田中 勇人・平山 順也
川田 大貴・西村 淳
久保 麻実

○文化功労賞

藤本るり子

○努力賞

秋山 宜輝・平 敬子
白井 舞美・細江 麻未
山口 紘生・奥山佐智代
瀬濱 龍弘・脇川 望
森本 真也・野原 里恵
河口 拓矢・濱元 進
金銅 衿子・出合 一登
山木千沙穂



ホームページリニューアルのお知らせ

二〇〇九年十月六日より、長尾谷高校ホームページを全面リニューアルしました。

今回のリニューアルでは、「情報の分かり易さ」「使いやすさの向上」「読みやすいレイアウト」「わかりやすいページ構成」をメインに、カテゴリを「入学希望の方」「入学希望の保護者の方」「進路指導担当の方」「企業・大学・専門学校の方」「在校生と保護者の方」に区分し、掲載情報は分かり易く簡潔に、目的のコンテンツへのアクセス方法の明瞭化を行い、且つ情報量もこれまでより豊富に、また広範囲にわたった公開を心がけています。



トップページのアドレスの変更はありません。なお、トップページ以外ではアドレス変更するページもあります。トップページ以外のページをブラウザのお気に入りなどに登録している場合は、お手数ですが登録変更をお願いします。

また、携帯版からも学校説明会・相談会の予約や、資料請求ができます。なおだに新聞の表紙の上部に記載されているQRコードを利用すると便利です。

本ページへのご意見、ご感想等ありましたら、お気軽にメール等にてご連絡ください。



レポートの放送視聴に関する問題について

本校は、今年度より2年間、全国高等学校通信制教育研究会より、放送教育の研究委嘱校に指定されており、その研究の一環としてレポートにNHK高校講座や自作CDなどからも出題し、その内容を分析しております。

それに伴い、まずは自宅で視聴する環境が無い生徒のために学校で視聴することができるよう環境を整備した上で、どの程度の解答率を得られるかを調査しました。

各教科ごとの詳細については割愛しますが、全教科から抽出したレポート数は1724、そのうち放送視聴を利用した問題の解答数は1110(68.4%)でした。配点は10点(30点の間とし、強制力が高くなりすぎないよう配慮した上での数字ですが、この数字が高いか低いかを判断するには比較するデータが必要になりますので、今回のこの結果で分析の結論を出すというよりは、今

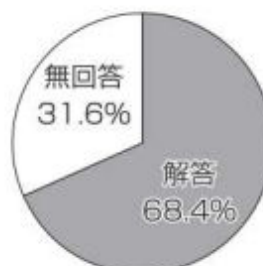
後の基準となるデータであると考えております。よって、来年度もこの調査を継続する予定です。

また、解答率が他の教科にくらべて低かったものについては何が原因であったのか考察・検討するなど今回の調査で浮き彫りになった課題と反省を活かし、今後も放送教育の質の向上のため様々な取り組みを進めていきます。

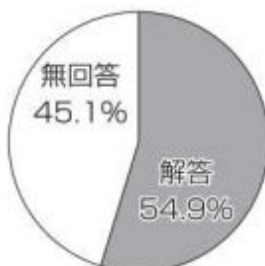
(メディア部 東野 嘉秀)



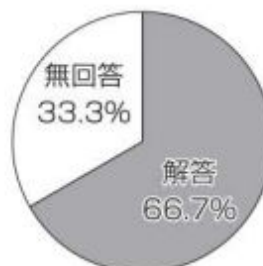
放送視聴関連問題 解答率(国語)



放送視聴関連問題 解答率(全科目)



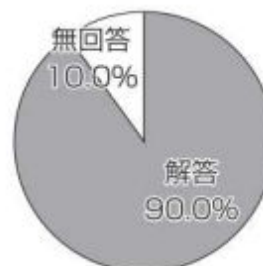
放送視聴関連問題 解答率(英語)



放送視聴関連問題 解答率(理科)



放送視聴関連問題 解答率(地歴・公民)



放送視聴関連問題 解答率(数学)

放送・メディアの使用状況に 関するアンケート結果報告

二〇〇九年九月～十一月にかけてアンケート調査を実施し、多数の回答を頂きました。

アンケート項目は、家庭学習の頻度とその方法あるいは、学習環境について行いました。さらに、NHK高校講座の利用についても質問項目を設けています。

今回はメディア、特に携帯電話とパソコンの保有について注目しました。結果の一部を紹介します。

回答総数 787人

1) あなたが自学習する頻度について教えてください。

- ① 毎日学習する・・・7・2%
- ② 週に5～6日・・・3・9%
- ③ 週に3～4日・・・10・2%
- ④ 週に1～2日・・・17・7%
- ⑤ 月に1～2回・・・20・8%
- ⑥ しない・・・58・8%

2) ①～⑤と答えた人は、家庭学習の方法について教えてください。

(複数回答可)

- ① 一人で学習する・・・95・1%

2) 家族に教えてもらう

- ③ 塾・・・15・1%
- ④ 家庭教師・・・13・6%
- ⑤ 予備校・・・3・4%
- ⑥ 教科書・・・5・6%
- ⑦ 参考書・・・48・1%
- ⑧ 副教材CD・・・31・8%
- ⑨ テレビ (NHK高校講座)・・・1・5%
- ⑩ テレビ (高校講座以外)・・・5・2%
- ⑪ ラジオ (NHK高校講座)・・・2・2%
- ⑫ ラジオ (高校講座以外)・・・0・6%
- ⑬ インターネット・・・0・6%
- ⑭ 図書館利用・・・18・2%
- ⑮ その他・・・6・2%

3) あなたが自宅等で自由に利用できるメディアに全印をつけてください。

(複数回答可)

- ① テレビ・・・88・1%
- ② ラジオ・・・39・0%
- ③ ビデオ・・・54・1%
- ④ DVD・・・74・3%
- ⑤ CD-ROM・・・52・2%
- ⑥ パソコン・・・72・3%
- ⑦ 携帯電話・・・89・5%

4) ③と答えた人へ a) インターネットに接続可能ですか。

- ① はい・・・85・2%
- ② いいえ・・・9・5%

b) パソコンやインターネットはあなたが自由に使用できますか。

- ① はい・・・93・0%
- ② いいえ・・・11・0%

c) パソコンの用途を教えてください。

- ① 文章や表の作成・・・16・9%
- ② ホームページの検索・・・63・4%
- ③ ネットショッピング・・・36・4%
- ④ メール・・・20・0%
- ⑤ 写真や音楽の編集・・・31・6%
- ⑥ ブログの作成・・・11・4%
- ⑦ その他・・・10・7%

e) パソコンは印刷可能なプリンターに接続していますか。

- ① はい・・・63・1%
- ② いいえ・・・18・3%

5) ③と答えた人は、どのような機能を利用していますか。

- ① 通話・・・49・3%
- ② Eメール・・・50・6%
- ③ インターネット・・・48・4%
- ④ その他・・・2・6%

今回のアンケート結果で、家庭学習の頻度が低い実態が浮かび上がってきました。しかし、①の結果について、家庭での自学習を全くしない人が六割近くを占めていますが、多数の生徒が単位習得できているので、「レポート以外の学習」と解釈した結果と思われます。レポート作成のための学習が身についていることは、教科書を学習に活用していることとわかります。

学習環境としては、テレビを始めとして、比較的整っている場合が多く、様々なメディアを使っていることがわかりました。特に利用率の高いテレビから情報を得ていることも伺えます。表には出ていませんが、NHKの高校講座の視聴はあまりなされていないのが現状です。レポートの課題として初めて観たという人も多いでしょう。これから春休みにかけて一年間のまとめとしての番組が放送されます。自学習向けの内容ですので、苦手科目の克服にも活用してみましよう。

情報リテラシーという言葉聞いたことがありますか。たくさん意味を持った言葉ですが、その一つに情報の活用能力という意味があります。どのメディアからもたくさんの情報が発信されています。

す。しっかりと自分で判断するために情報リテラシーを身に付けましよう。

今回のアンケートでは、使用する携帯電話の機能でわずかですが、Eメールが通話を上回っています。これも特徴でしょう。もう一つプリンターを接続していない人が約2割見られます。パソコンの利用目的はホームページを検索する、つまり画面を見ながら情報収集をすることが多く、文章や表を作成する機会が少ない場合はプリンターを必要としないのかもしれない。もう一つ考えられるのは、バーレスクの時代が進んできているということ。今後、プリンターを持たない人の割合は上昇すると予想できます。

次回はNHK高校講座に内容を絞り、視聴目的や講座に対する要望などについて報告を予定しています。

(メディア部 玉城 陽子)



在校生からのメッセージ

長尾谷高校に

入学して

枚方校 北原 由梨

わたしが長尾谷高校に入学したのは高校一年生の後期でした。前の高校に馴染めず、学校に行くのが嫌で、六月くらいにはもうすでに不登校になっていました。今後どうしようと迷った挙句、とりあえず高卒の資格は取ろうとこの高校に入学することにしました。

入学後、前の高校を続けていればよかったと思うことがたまにありました。そしてこの高校ならではの、たっぷりと空いた時間を特に有効に使うことなく、毎日タラタラと過ごしていました。しかし、単位は落とさずにはなかったで、勉強面では頑張っていました。スケート実習や修学旅行など、特別活動にも積極的に参加しました。

わたしは人と話すことが苦手で、前の学校をやめることになった一番の原因はそこだと思っています。ここへ来ては相変わらずで、せつかく相手の方から話しかけてくれても、

うまく会話ができませんでした。そんなわたしでも、次第に友達ができました。似たような理由でここに来た人がたくさんいました。それゆえか、会う回数は少ないのに話が合いやすく、すぐに親しくなることができました。

ここへ来て一年が過ぎても、相変わらず何も無い毎日を過ごしていたのですが、さすがにこのままだと先行きが不安だと思いはじめました。そこで二年生の十月頃に、前々から行こうかと悩んでいた「受験対策講座」に行ってみることにしました。途中で嫌になってやるかもしれないと思っていたのですが、別に嫌なこととは何もなくて、むしろ毎日することができて、なんだか充実した気になりました。

今までレポートやテストのとき以外はまったく勉強しなかったのが、普段でも少しずつ勉強するようになりました。そして、高校を卒業したら進学しようと思ったのがこの時期でした。進学を決めたちょうどその時期に、今年の四月から新しくスタートする「特進クラス」の存在を知りました。新しいだけに

どんなものか分からなくて不安もあったけれど、進学を考えているわたしにはぴったりと思つて、特進クラスに入ることにしました。入るために模試を受けたり、毎週出された課題をやったりと大変でした。返ってきた模試の結果が悲惨だったときや、毎週やらなければならぬ課題を何週間もほったらかしにしたときは、やっぱり今のうちに入るのをやめておこうと思いましたが、でも友達も頑張っていたので、わたしも一緒に頑張ろうと決心しました。

長尾谷高校に転入した当時、一体自分の将来はどうなるんだろうと心配していたのですが、今は進学するという目標ができたので、そんな心配はなくなりました。もうすぐ特進クラスが本格的に始まるので、途中で諦めたりせず、頑張っていきたいです。



読書案内

21



「疾風怒涛のクラシック案内」

芸術科(音楽)

梅田校教員

堀江直子

今回の一冊は、「疾風怒涛のクラシック案内」を紹介する。筆者は、オーボエ奏者・指揮者・音楽プロデューサーの宮本文昭で、NHK紅白歌合戦、ユニクロCMモデルでも登場していたバイオリニストの宮本笑里の父親である。一風変わった本のタイトルだが、ページを開いてみると、口語体で書かれているので、テーマに興味がなくても読みやすい。

一言で言えば、クラシックを、どんなふうに聴けば楽しいかを綴っている。

百十二ページ二〜六行には、クラシックを楽しむコツは、「ファンタジー」で、個人が思い描く「物語」の一つを見つけると楽しくなると示唆している。

百四十一ページ一〜六行では、店で新しいスピーカーを購入するとき、どのCDを持参してスピーカーの良し悪しを品定めすればよいか、お勧

めCDが書かれていておもしろい。(そのCDは、ストラヴィンスキー作曲「春の祭典」)

極めつけは、百四十五ページ三〜十一行で、著者自身の体験からくる人生観まで書かれている。「やりたいと思つてトレーニングを積んでいけば、やがてできるようなことでも、人間やればできるんです。年齢なんて関係ありません。声を大にして言いたい。あきらめないで希望を持ちましょう。」と励ましてくれる。

この部分を読んで、七十五歳でエベレスト登頂を成し遂げたスキーヤーの三浦雄一郎を思い出した。人間の持つ限界ははかりしれない。オリンピックもそうだ。人間の可能性に皆が感動する。

音楽も管弦楽曲や交響曲(オーケストラで演奏する楽曲)、歌劇(オペラ)など多くのメンバーで創り上げる作品を、是非、生演奏で聴いて、見て、感動する体験を味わってほしい。



卒業生からのメッセージ

「自分を信じて」

京都校 山崎 美穂
二〇〇八年度卒業
大阪モード学園

私は長尾谷高校の美容コース卒業後、「大阪モード学園」に入学しました。

3年制のメイク学科に所属しているのですが、メイクやヘア、ファッションや絵など色々な事を学んでいます。メイクもビューティーメイクだけでなく、特殊メイクなども学べて、作品作りがあったり、プロのカメラマンさんに自分の作品を撮っていただきたりして、写真で仕上がった自分の作品を見たときの感動は忘れられません。

大変な事もたくさんあります。なかなか上手くいかずに挫けそうになったりもしました。睡眠時間もあまりないです。



方々、保護者の方々、小さいお子様にヘアアレンジやメイク、ネイルアートをさせていただきました。

自分がしたメイクやヘアで変身したお客様が、「ありがとう」と笑顔で言ってくれたのが一番嬉しかったです。それが私のエネルギーになり、なにより幸せなことでした。

私の夢は、「メイクアップアーティスト」です！国内だけでなく、海外でも活躍できるようにアーティストになりたいと思っています。

ビューティーメイクだけでなく、創作的なメイクも大好きなので、自分の手で色々な作品を作って、人を美しく、幸せな気分にしてあげられるようなそんなアーティストになりたいです。私は顔というキャンバスに絵を描き続けたいです！

私は、勉強があまり出来る方ではなかったですが、メイクがしたいという気持ちは誰にも負けない自信がありました。

だから、皆さんも自分がやりたい！と思える事を決めて諦めずに夢を追いかけてください！

自分を信じて頑張っていればいつかそれが現実となつて、自分を大きくしてくれます。私も今以上に頑張っていますので応援してください。ありがとうございます。

クラブ紹介

入部希望者はスクールナビの「クラブ入部申込書」をユーターに提出してください。

美術部

毎週水曜日
京都校 二〇二教室にて
16:00～17:00まで活動中。

普段は自分たちの好きなモチーフを自主的に描いていますが、希望者を対象にデッサンの指導なども行っています。



マンガ研究部

毎週月・金
京都校 二〇二教室にて
16:00～17:00まで活動中。

マンガ・アニメ・ゲームなどに興味のある部員が、わきあいあいイラストや小説などを制作しています。長尾谷フェスティバルでは美術部と合同で作品展示も行いました。

バドミントン部

現在部員数は男子7名・女子3名計10名です。毎年夏の全国大会にも出場しています。初心者・上級者を問わず、興味があれば誰でも入部できます。活動日は火・木・土曜日のうち、本校体育館の割り当てられた日時となります。京都校でも練習予定です。

スポーツ戦績

スキー部

大会の結果
平成21年度第60回大阪高等学校スキー選手権大会兼第59回全国高等学校スキー選手権大会大阪府予選会

試合結果

男子クロスカントリー
フリーの部 優勝
藤井 昭夫

スケート部

平成21年度全国高等学校総合体育大会第59回全国高等学校スケート競技（フィギュア）選手権大会
インターハイ出場

大西 佐英
久保 麻実

帰国留学生がらのメンサーズ

カナダ留学をして

京都校 河西 智哉

私は、二〇〇九年の九月から二〇一〇年の一月終わりまでの五カ月をカナダで留学生として過ごしました。カナダという地は気候的にも大変暮らしやすく、特に私が行った時期は涼しくて、冬も寒くなくてとても過ごしやすかったです。そういう理由もあって、カナダにはたくさんさんの留学生や移民がいて、様々な英語や文化と出会うことができました。

初め、私は長尾谷から、他三人の学生とともにカナダにやってきて、期待や楽しみに



ばかりで不安というものを全くといっていいほど感じていませんでした。入国、オリエンテーションをして、ホストファミリーの家に向かってからは、英語と異国の文化、雰囲気にも馴染みました。英語は

もちろん、さまざまな文化に触れ、とても多くの移民がいて、それぞれが何か目的をもってやってきているのでとても活気があり、みんな目が輝いていて、とてもいい雰囲気です。自分も夢に向かって進まなくてはという気持ちにさせられました。そして、彼らも自分の国に誇りを持っており、もっと自分も自分の国のいいところを他人に話し、誇れるようになりたいと思いました。

私は、初めの二カ月をジュニアクラス、次の二カ月はJETSという国際英語技能認定試験の対策クラス、最後の二カ月はアダルトクラスにいました。ジュニアクラスには十歳から十八歳の人がいます。彼らは、みんながみんな英語をしゃべられるように



なりたくてカナダに来たというわけではなく、ある人は海外旅行気分だけバケーションの一つとして来ているし、親に強制されて来ている人もいます。だから、みんながみんな授業に対してやる気があるわけではなく、勉強しているようには見えない人も多くいます。しかし、みな不器用ながらも他国の人と話しようとするので、たくさん話して、文化の外国の友達ができて、文化に触れることにもなり、とても良い経験となりました。授業も日本と雰囲気はかなり違います。まず一日が四つの時間に分けられ、全部一時間以上あります。そしてカナダの乾燥した気候のため、授業中の水分補給が自由で、先生によつてはスナックも自由に食べてよいものもあります。授



業中の姿勢も先生はまったく注意せず、しっかりと話を聞いているならば、かなり自由でした。これは自分にとってかなり良い環境でした。授業に対して難しく考えなくて良く、気楽な気持ちで臨めるので、授業が楽しく感じられました。そのおかげもあって英語の勉強というのが楽しく、やる気ができました。

その後私はテスト対策、アダルトクラスとクラスがかわりましたが、ここではみな本当に英語が必要で勉強しに来

ているので、授業に対して熱心で、やる気がない人なんていないといつてよいでしょう。そして先生もそれに応えようとやる気のみなぎって、とてもいい場所でした。

最後に、この十七歳という時期にカナダに留学できてとても良い経験となったところに、世界の様々なところに住む友達もでき、英語だけではなく、様々なものの見方においてもかなり成長できたことと思います。

総合学習

総合学習 新設！（奈良校）
放送教育分野

奈良を習おう―奈良学入門―
担当者 足立 崇（予定）

平城遷都一三〇〇年祭

今年（二〇一〇年）は、平城京への遷都（七一〇年）から一三〇〇年になります。

奈良県では、平城遷都一三〇〇年祭という大記念事業を、一年間行います。

平城宮跡を主会場に、県内各地で様々なイベントが予定されています。

平城宮跡では、大極殿正殿が復原され、四月から一般公開されます。

平城宮跡会場では、「平城京歴史館」が仮設されて、遺



復原された大極殿正殿

唐使船を原寸大に復原展示、乗船体験もできます。

また、「平城京なりきり体験館」では、天平衣装を身にまとい、平城京映像を背景に写真撮影します。

平城宮跡へは、長尾谷高校奈良校から電車で一駅です。

近鉄大和西大寺駅下車、徒歩一〇分。駅から無料シャトルバスも運行されます。

新たに奈良を考える科目

総合学習「奈良を習おう」は、平城遷都一三〇〇年にあたり、奈良について新たに考えてみようとする科目です。

奈良の歴史、文化、自然、現代の課題など様々な面を学び、これからの奈良を考えます。

現在の問題にも取り組み、地域的には奈良県全体を理解する学習としたい。

DVD教材を活用

奈良テレビ、NHKなどの番組や映画DVDなど、映像教材を活用して学習します。

また、現地見学や奈良検定テキストの利用なども検討しています。

これまでの総合学習「社会生活の諸問題」（閉講）における学習方法を参考に、工夫したものにしていきます。



一番かわいいと評判のせんたくん看板（大和西大寺駅前）

学習内容（予定）

予定している講義内容を紹介します。最新の映像を活用しますので、教材を変更することもあります。

①平城遷都を考える

平城遷都一三〇〇年祭関係の映像により学習。できれば、平城宮跡の復原された大極殿正殿を見学します。

②現代の課題を考える
奈良テレビ「奈良そこが知りたい」やNHKスペシャルなどで学習します。

③奈良の風土を考える
奈良を舞台にした映画でおなじみの、奈良出身の映画監督、河瀬直美さんの映画作品を鑑賞します。

④奈良の地勢を考える
奈良県の地形や自然、世界遺産「吉野・大峰」などを学習します。

⑤邪馬台国を考える
NHK高校講座、最近の新聞記事、現地写真などでその所在地を考えます。

園芸サークル活動報告 ―土作りは人作り―

園芸サークルが発足して一年になろうとしています。野菜作りに興味をもっている生徒が集まり、サークル活動が開始されました。園芸の基本は土作りです。最近ではホームセンターなどへ行けば簡単に手に入る肥料や農薬がありますが、できるだけそういう既存のものを使わずに作物を栽培することに挑戦すること、手間のかかる作業をコツコツと続けていこうと決めました。

まず始めた事は近隣の落ち葉拾いから。清掃活動も兼ねた堆肥づくりはボランティア的な活動としても有効です。ナイロン袋一杯に回収した落ち葉を一定期間放置して、堆



肥に利用します。

一番苦労したのが「転地返し」という土起こしでした。グラウンドをみんなですこッブ・ツルハシ・鍬で掘り起こしている、大きなブロックの塊（かたまり）が出てきました。始めは五十センチほどの野球のベース状のものかと思っていました。ところが、いくら掘っても掘り起こせません。どんどん掘っていくと縦六十センチもある支柱のブロックが出てきました。人が持ち上げることができるような代物ではありません。いろいろの思案の末、トラロープを巻きつけて車で引っ張りあげました。総勢十名。三日間かかりました。

現在、園芸のメンバーは六人となりました。冬野菜の収穫時期です。ダイコンが土を持ち上げて白い肌を見せています。菊菜やほうれん草も立派に育っています。毎日当番制で虫取りをしてきました。本年度は、夏に長尾駅近くの貸農園で収穫体験学習を行いました。また、秋には芋煮会を、暮れにはダイコンを中心とした味噌汁を作ってみなで味わいました。（写真）苦労して育てた野菜の味は格別です。園芸活動は地味なものです。自分たちの手で育てた野菜が少しずつすすくと育っていくのが楽しみです。

（園芸サークル顧問 片山新次）

私が卒業した高校は、大阪市内にある私学の幼稚園から短期大学までである中の高校だ。私が通っていた頃は、1学年10クラスだった。

私はその学校に幼稚園から短期大学まで通い、大学に編入学した。

校則は、服装や頭髪はもちろん厳しく、男女交際禁止と生徒手帳に書いてあった。

中学生、高校生の頃は、バスケットボール部に所属し、6年間クラブ活動を毎日を送った。朝練習をし、授業を受けて放課後にクラブをする毎日だった。夏は19時、冬は18時半に完全下校という短い練習だったが、その中で必死に練習をしていた。家にはご飯を食べ、寝に帰るだけと言っても過言ではない。

クラブの先生は、生活面からバスケットボールの技術に至るまで、すごく厳しい指導をしてくれた。たくさんのお話を学んだ。中学生の頃から、土日は他校との練習試合や合同練習、夏休み・冬休みには合宿や遠征など、ク

ラブ活動ばかりだった。

クラブ活動は辛く厳しかったが、それを乗り越えてくれたのも大切な仲間を支えられ、助け合うことができたからだと感じる。一緒に同じ目標に向かって戦い進んできたチームメイトは、今でも大切な友人である。

私の学校はカトリックで、朝礼・終礼ではお祈りをし、聖歌を歌う。クリスマスの時などはミサが行われ、精



クラブと行事で得た大切な友人

先輩に憧れたり、先輩に教えられることも多く、高校生になれば、中学生に指導することもあった。

私は、小さい頃から行事が好きで、合唱コンクール・体育祭・文化祭など、すごく楽しみだった。高校1年生のときにしかなかった合唱コンクールでは、曲選びにはすごく時間がかり、決めていた曲をギリギリになって変更をしたこともあった。短期間で歌



藤田 麻巳先生
(保健体育)

の練習をし、担任の先生に向けて感謝の気持ちを込めて歌った。優勝をすることはできなかったが、特別賞をもらうことができた。

体育祭では、クラス全員リレーの走順を考えたり、クラス一丸となって優勝を目指し練習をしていた。入場行進に使用するときのプラカードには装飾をし、応援旗をつくり、クラスTシャツを作って、体

育祭に向け、それぞれのクラスが気合いを入れ、応援合戦をする。

3年生では、学校の伝統的なダンスがあり、クラスごとに1つの棒にリボンを編んでいくダンスはすごく練習したのを覚えている。高校3年間、総合優勝をすることができたのもすごく嬉しかった。

文化祭では、3年生しか飲食店を出すことができず、3年生で飲食店を出せるのが楽しみだったのを覚えている。メニューを考えたり役割分担や当番を決め、看板を作り、クラス全員で協力し、何日もかけて準備をして当日を迎える。2日間の文化祭が終わったときは、すごく気持ちのいい達成感を味わうことができた。

授業では、高校3年生で「体育特講」という授業があり、クラブ活動をしている生徒が中心となった体育の好きな生徒ばかりが集まり、新体操のトランポリンや鉄棒など、様々な種目を体験することができた。クラスの体育の授業ではできない種目を体験できる授業であり、高校3年間の授業の中で一番印象に残る楽しい授業だったかもしれない。

高校生活は、クラブ活動・

合唱コンクール・体育祭・文化祭など、たくさんのお話をチームメイトやクラスの仲間と助け合い、協力した3年間だった。

高校の頃の友人とは今でも一番の友人で、高校生の頃から知っているからこそ自分を出すことができ、自分を理解してもらっているすごく大切な友人だ。

今、高校生活を振り返ると、指導していただいた先生方や、3年間を共に協力して過ごしてきた仲間感謝していることばかりだ。

当たり前前に存在しているモノほどありがたいものはない。着る服がある、学校に通えている、どれだけ離れていても電話ひとつで話ができ、メールでも、友達にでも、自分の周囲にいる人、モノにでもいい。何にでもいいから素直に、感謝の言葉「ありがとう」と言葉に出して伝えてみる。まずは、朝起きたときでも、寝る前でもいつでもいい。感謝することから始めよう。